

SSKO



おあしす通信

編集 キープハート(おあしすの事業を支える市民の会)

2023年 3月号



左：食堂の人気メニュー 鶏の唐揚げ定食 右上：JAXA調布入口
右下：食堂から見える「HOPE-X 強度試験用供試体」のオブジェ

オアシス・プラス JAXA調布食堂業務を受託 *詳しくは4ページをご覧ください

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6
TEL 03-5690-5959
<http://www.oasisfukushi.or.jp/>



就労継続支援B型事業所

- オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811
- コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

多機能型（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）事業所

- ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

- ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム） ■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

公益事業

- 住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）

〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

食を通して多様性と持続性を考える

地域連携SDGsイベントに協力しました

～武蔵野大学×SAMEYA×オアシス・プラス コラボ企画～

2022年12月12日に武蔵野大学有明キャンパスにて実施された「食を通して多様性と持続性を考える地域連携SDGsイベント」にオアシス・プラスもコラボ協力しました。このイベントは武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科 神吉宇一ゼミの学生による企画で、このSDGsイベントにおける地域連携は、2020年から神吉ゼミが取り組んでいる障がい者アートの市民芸術祭「アートパラ深川」から江東区地域のネットワークが構築され、実現したものです。イベントは「共生社会の実現」「多様性」「持続可能性」をテーマとして掲げ、その各テーマを体感するツールとして、宮城県気仙沼市の未利用魚サメ肉専門店「SAMEYA」のサメバーガーと、オアシス・プラスのお弁当を取り上げていただきました。

今回オアシス・プラスでは単に「障がい者施設で製造した弁当」ということだけでなく、同学有明キャンパスの屋上農園で育てた小松菜をお弁当に使うという目的もありました。この小松菜はオアシス・プラスの製造過程で出る生ゴミを施設内で加熱・乾燥処理したものを、武蔵野大学屋上農園のコンポストに一部入れて肥料を作り、その肥料を使ってできた小松菜です。そしてそのお弁当の売り上げは障がいを持つオアシス・プラス利用者に工賃として支払われる・・・という循環の可能性の提案になったとも思います。

今回はオアシス・プラスの利用者が直接販売や活動をしたわけではありませんが、学生との交流や、自分たちが作ったものを通じて「共生社会の実現」「多様性」「持続可能性」について考えるイベントのお役に立てたことは、とても有意義でありがたい機会となりました。今後も地域の中で「共生社会の実現」を希求する様々な方達と、色々な取り組みにチャレンジしていけたら素敵だなと思います。今回は武蔵野大学グローバル学部 神吉宇一先生、工学部 明石修先生のご発案により貴重な機会をいただきました。心より御礼申し上げます。
(友田 奈津美)



写真は左から時計回りに・小松菜を届けてくれた学生さん
・いただいた小松菜で作ったおひたし・弁当の製造風景
・イベントのチラシ・イベントの様子（上下）
・学生のセミナー風景



違うって楽しい、想像力は無限大！

～対話型アート鑑賞ワークショップを開催しました～

2023年1月17日、ウィル・オアシスにて「対話型アート鑑賞ワークショップ」が開催されました。これは障がい者アートの市民芸術祭「アートパラ深川」の企画の一つで、武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科の学生（中屋千宙さん、濱田夏帆さん、原結依奈さん）がファシリテーターとして企画・実施するものです。アートパラ深川の入選作品を使って、対話を通じてアートを見て感じることの違い、多様性を楽しむワークショップ（以下「WS」）。学生達から「ぜひ障がいを持つ人にもこの企画を楽しんで欲しい」との要望を受け、今回はおあしす福祉会全体で13名の利用者が参加しました。

1つめのWSは全員で7枚のアートを見て、自分が印象に残ったものを1つ選び、その理由を話す、2つめのWSは1つのアートを見て2人1組になり、そのアートから想像できる物語を作る、というものでした。

会が始まる前は、違う事業所の利用者同士ということで緊張している利用者もいて、学生も「こんなに大人数のWSは初めてで、うまくできるかな」と緊張していました。しかし、大学生3人が元気に明るく進行をする姿に、参加者も次第にリラックスしていきました。そしてそれぞれがアートを見て感じたこと、印象に残ったことを話す場面では、みなさん本当に様々な視点で見たり感じたりしていることが語られ、「へ～そんな風に感じるなんて面白い！」「自分と全然違うからこそ、すごくハッとする」といった声があがりました。また2人1組で物語を作るWSでは、本当に「想像力は無限大だ！」とを感じるような、それぞれ全く違う視点や物語の終結が語られ、発表の都度、感嘆の声がこぼれました。

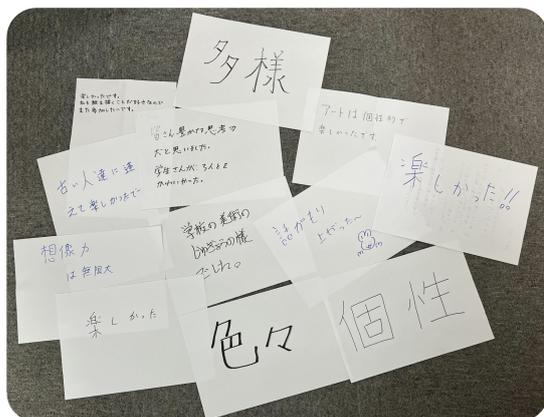
最後には参加した感想を紙に書いてみんなで見せ合いましたが、多くの方が「個性や違いを感じることはとても楽しかった」「アートをどう感じるかは自由だから、どんなことを感じてもいいんだ、というのが良かった」と好評でした。

今回ファシリテーターを務めた学生からは「みなさん障がいがあるなんて感じなかったし、みんなすごく積極的に色々な話をしてくれて、私たちも楽しかった」と感想を頂きました。

普段どうしても「正解」や「上手にやること」に囚われてしまい、自由に話したり、誰が何を言っても皆がそれぞれの感覚を尊重するという機会は少ないように思います。「アート」は何を美しいと思うか、どこにどう惹かれるのか、それは自由でよいということを自然とみな受け入れられるようなものの気がします。ですから今回、通常のプログラムよりも自由な言葉がたくさん紡がれたのではないかと思います。

本当はみんな違うのが当然ですし、違いを認め合うことこそが他者尊重、共生社会の実現にとって不可欠なことだということを改めて感じられた素敵な機会となりました。今回実施してくださった武蔵野大学の皆さんに感謝いたします。また参加したい、という声もありましたので、ぜひ今後も実施したいと思います。

（友田 奈津美）



オアシス・プラス 新規事業スタートしました

～JAXA調布 食堂運営業務を受託しました～

2022年12月からオアシス・プラスはJAXA調布の食堂運営業務を受託することになりました。今回はこの新規事業についてみなさまに第一弾のご報告となります。

昨年5月に、お話を頂いた時には実施場所となるJAXA調布が江東区から電車で1時間以上かかること、食堂運営は経験が無かったことなどから、とてもお引き受けできないのでは…と躊躇しました。しかし、「これまでの経験を活かしてさらに利用者の働く機会を拡充するチャンスなのでは？」と考え、そこからは職員全員で受託するかどうかの検討・議論を繰り返しました。そして約5ヶ月の検討、JAXA調布との協議を重ね、受託すると決めました。この決定の一番の決め手となったのは「JAXAで働けるなんて夢があるね」という利用者や職員の声でした。「夢を抱ける機会」を作りたい。その思いで新しい挑戦を決意したのでした。

利用者には11月から見学や説明会を実施し、12月中旬から利用者もJAXA調布の作業をスタートしました。初めて利用者にご事業についてお話をしたときには「え！？あのJAXA?」「うそでしょ!？」等、驚きと戸惑いの声が漏れました。しかし、工賃は時給1,080円となること、実際の業務はオアシス・プラスでの経験があれば十分可能なことなどを丁寧に説明していくと、利用者の目に希望や期待の光がともるのを感じました。

12月1日からグランドオープンしたJAXA調布食堂の営業時間は平日の11:30～13:30。利用者の業務時間は10:30～14:30の4時間。日替定食650円、週替丼もの600円、日替麺類550円（※一般客は+50円）の3種類から選べ、どれも大盛り、少なめにも対応します。1日だいたい40～70人ほどのお客様にご利用いただいています。お客様のほとんどはJAXA調布の職員の方達です。限られた昼休み1時間に素早く提供することが求められます。作業は食堂運営にかかる全ての業務です。客席の整備、食事の仕込み作業、接客、食事の盛り付けと提供、食器洗浄、売上の計算等たくさんありますが、利用者、職員が協力し合っています。献立については職員が作成したものを大妻女子大学家政学部の川口美喜子教授（管理栄養士・医学博士）に監修を頂き、食のプロの視点でご指導いただけることになりました。

JAXAで働く利用者は、最初は緊張や不安もありましたし、通勤は電車で1時間以上かかるので「もう少し近かったらな～」という声もありますが、「働いているな、って実感する」「お客様に見えるから常にキッチンしようと思える」「お客様に『おいしい』『ごちそうさま』と言ってもらえてうれしい」「施設の中で働くよりとても楽しい」と言い、毎日生き生きと働いています。まだスタートして3ヶ月ですが、いまJAXA調布食堂で働く利用者の活躍ぶりを見ると、挑戦して良かったと思います。また引き続き利用者の活躍の様子をお伝えしていきたいと思えます。

最後に今回の事業開始にあたってはJAXA調布事業推進部の嘉指マネージャー、三井田主査のご尽力無くしては実現できなかったと思います。この場を借りて感謝御礼申し上げます。（友田 奈津美）

【現在JAXA調布での調理員の非常勤職員を募集しております。詳細はオアシス・プラスまでお問い合わせください】



食堂



厨房



川口先生（中）と三井田主査（右）

シャークスとお弁当のスクラムが今年も継続！！

～人を応援することはわたしたちの力にもつながる～

おあしす福祉会は2022年にラグビーチーム「清水建設江東ブルーシャークス」様（以下「シャークス」）から様々な協力をいただきました（詳細はおあしす通信2022年7月号参照）。そのご縁が今年もつながり、なんとジャパンラグビー リーグワン2022-2023シーズンの、シャークスのホームゲーム（江東区夢の島競技場での試合）の際に、スタッフと選手用弁当のご注文をオアシス・プラスにいただけることになりました！！

今シーズンは現時点で4回のホームゲームの際にお弁当をお届けする予定です。オアシス・プラスにとってシャークス様はたくさんのご注文を頂けるお得意様として、利用者・職員一同感謝しております。昨年チームから頂いたメッセージボードも施設内に大切に飾り、毎日選手の応援メッセージに励まされています。

納品前日の仕込み作業では「明日の試合お天気どうかな？」「チームの皆さん喜んでくれるかな？」といった会話が聞こえます。納品当日は職員は朝7時から、利用者は8時から調理と盛り付け作業に取り組みます。納品数は100～160個ですので、作業台にお弁当容器を並べて盛り付けて蓋を閉めて・・・という作業を正味2時間半の間に3～4回行ないます。忙しいながらも「このお弁当を食べて選手のパワーが出るとイイネ」「このお弁当で試合に勝った！って言うてもらえたら嬉しいね」と心を込めて作っています。

1月14日のホーム初戦では、チームからご招待を頂き、10名が試合観戦を楽しませていただきました。昨年初めてラグビーを見たという利用者も今ではルールも分かってきて、毎試合のシャークスの結果を気にする方もいらっしゃいます。また、私たちがチームにお弁当をお届けしていることを知ったシャークスファンの方が、週に1回のお弁当販売場所に買いに来てくださるといった嬉しい出来事もありました。

障がいがあるということで、いつも誰かにサポートされるばかりでなく、障がいがあっても、誰かをサポートしたり役に立てる機会は、障がいや症状の回復に大きく寄与します。その機会がお弁当を通じて広がっていることをシャークス様からのご縁で強く感じています。誰かを応援するという事は応援する側の力にもつながるとも思います。オアシス・プラスでは「チーム、選手を応援する」ということで、それが実現しているとも言えます。このような機会をくださったチームの皆様には本当に感謝申し上げます。今後も様々な形で地域の色々な人、団体を「おあしす」が応援できる機会を作っていきたいと思ひます。（友田 奈津美）



KOTO BLUE SHARKS RUGBY FOOTBALL CLUB			
2022-2023 102 リーグ戦 試合日程			
清水建設江東ブルーシャークス			
GAME SCHEDULE 2022-2023			
GAME 1	12/18	Kick off ▶ 14:30	
@長知 VISITOR	豊田自動織機シャトルズ長知		
パロマ瑞穂ラグビー場			
GAME 2	12/24	Kick off ▶ 12:00	
@大阪 VISITOR	浦安D-Rocks		
ヨドコウ長洲スタジアム			
GAME 3	1/14	Kick off ▶ 14:30	
@東京 HOST	釜石シーウェイブスRFC		
夢の島競技場			
GAME 4	1/21	Kick off ▶ 14:30	
@東京 HOST	三重ホンダヒート		
夢の島競技場			
GAME 5	2/4	Kick off ▶ 14:30	
@東京 VISITOR	日野レッドドルフィンズ		
AGFフィールド			
GAME 6	2/18	Kick off ▶ Coming Soon	
@東京 HOST	日野レッドドルフィンズ		
夢の島競技場			
GAME 7	3/4	Kick off ▶ Coming Soon	
@東京 HOST	浦安D-Rocks		
夢の島競技場			
GAME 8	3/12	Kick off ▶ Coming Soon	
@三重 VISITOR	三重ホンダヒート		
三重交通G スポーツの杜 鈴鹿			
GAME 9	3/19	Kick off ▶ Coming Soon	
@岩手 VISITOR	釜石シーウェイブスRFC		
釜石南庄復興スタジアム			
GAME 10	3/25	Kick off ▶ Coming Soon	
@東京 HOST	豊田自動織機シャトルズ長知		
夢の島競技場			

地域みんながつながるお店づくりをめざして ～コロナ禍のリサイクルショップ～

リサイクルショップ・オアシスは、1997年に江東区北砂3丁目にオープンしました。地域のみなさまに愛され今年で26年目を迎えます。リサイクルショップの運営は、全国の協力者から提供していただいた洋服や雑貨、食器等の品物で成り立っています。

3年前の春、新型コロナウイルスの感染拡大によりお店を開けられない時期があり収入が激減。提供品も集まらずお店の運営に大きな影響がありました。このままお店の営業を続けていけるのか？利用者を支払う工賃がどうなるのか？と不安な時期でした。コム・オアシスでは、利用者と話し合いを重ね「来店するお客様・お店で働く利用者も安心して利用できるお店づくり」をめざすことにしました。

コロナ禍はまだ続いています。試行錯誤を続けてきた結果、お客様の口コミなどで認知度も上がり、江東区以外の方にも来店してもらえるお店になりました。また昨年度はオープン史上最高の売上を達成し、1日の来店者数も増え続けています。今回は、リサイクルショップの様子を店員として働く利用者の声を通じてご紹介します。

■最初の緊急事態宣言が出て、仕事が休みになり自宅待機になりました。ずっと家に居るのはつらかったけど、ニュースで何人も亡くなっているという話もあって不安でした。

仕事の再開後は、仕事ができることはうれしかったけど、マスクをするのは息苦しかったです。でも、「自分がめげたら、みんなめげちゃう」と思って頑張りました。

今は、マスクをすることで安心して仕事できています。忙しい時はつらいけど、接客はストレス発散にもなるので、これからも頑張りたいです。（Aさん）



■コロナ禍になったばかりの頃は、自分たちは手洗いや消毒の徹底をするようになったし、お客さんには消毒のお願いの声かけをしないとイケなかったのが大変だった。

コロナ前に比べて、来店するお客さんが増えたと思う。一度にたくさん買っていくお客さんも増えて売上も上がってとても嬉しいです。「ありがとう」「がんばってね！」と言ってくれるお客さんもいるので、やっていて良かったと思います。

今も「飛沫で感染したらどうしよう」と、会話にも気を付けています。コロナ前みたいに何も気にしないで接客できるようになれば良いなと思っています。（Bさん）

リサイクルショップ・オアシスは、これからも力を合わせてお客様が安心して来店できる、いつ来てもワクワクするお店を運営していきたいと考えています。お近くまで来た際にはぜひお立ち寄りください。（高橋 邦浩）

～リサイクルショップ・オアシスよりお知らせ～

★2023年春より、新しい店舗での営業を行う予定です。

詳細は公式Twitter等でお知らせします。

☆リサイクルショップ・オアシスでは提供品を募集しています。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。



フードドライブの食品をまだまだ募集しています！

昨年のおあしす通信からフードドライブについてお伝えしてきましたが、とてもありがたいことにそれ以来郵送にてご協力くださる方が増えています。ご協力ありがとうございます。先月は買い物カゴ2つ分の食品が集まり、フードバンク江東さんにお役立ていただいたり、利用者にお渡ししたりすることができました。もしご家庭で眠っている食品がありましたら、これからもぜひお待ちしております！

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

2022年度特別販売活動の報告

全国からたくさんのご注文をありがとうございました！

毎年、コム・オアシスを中心におあしす福祉会では夏と冬に特別販売活動を行っています。この活動の収益は、全国の被災地への支援活動費やおあしすの利用者活動の費用として大切にに使わせていただいています。今回は、2022年度の活動を振り返り報告させていただきます。

コロナ禍になって3年目、お客様に商品を通して少しでもご家庭で楽しんでいただこうと考え、従来の商品以外に夏は“全国のカレー”、冬は“全国のラーメン”の紹介を行いました。その結果、皆さまから寄せられた注文数は延196件、売上総額は約300万円にも達しました。また、この活動へのカンパもいただいています。併せて行った東北や九州地方の被災地した地域にある障がい者施設でつくられたカレーや珈琲、ラーメンの販売もみなさまから好評を得ています。みなさまから寄せられた注文やメッセージは、利用者・職員一同の励みになっています。ありがとうございました。

次回は、6月頃に夏期販売活動を予定しています。皆さまからのご注文を心よりお待ちしております。

2022年度 特別販売活動報告

■夏期特別販売活動

売上 約150万円 注文件数 99件

■冬期特別販売活動

売上 約149万円 注文件数 97件

夏に販売をした
全国のカレー（右）



被災地した地域にある障がい者施設でつくられた商品カレーや珈琲、ラーメン。どれも人気商品です！（左）

どんなリクエストが届くかな

～子どもたちに木のおもちゃを贈る活動～



●おもちゃをプレゼントしました

ピアワーク・オアシスでは昨年12月に、公益財団法人がんの子どもを守る会が運営するアフラックペアレンツハウス（宿泊施設）3か所へおもちゃをお届けしました。わたしたちのつくったおもちゃがブレイルームのおもちゃ仲間入り。さっそく車のおもちゃを気に入ってお部屋まで連れて帰ってくれたお子さんがいたとのお話を伺いました。

そんな嬉しいエピソードを聞いたわたしたちは、「よし、がんばるぞ〜！」とパワーが湧いてくるのです。

●いつも以上にがんばれるんじゃないかな

公益財団法人がんの子どもを守る会のご協力のもと、これからお子さんやご家族からおもちゃのリクエストをいただく予定です。

「以前被災地の子どもたちに木のおもちゃを贈る活動で、『宝箱のかたちをした宝箱』というリクエストが形になったのを見て、すごいなと感動した。今度はわたしもこの活動に関われることは誇りです」「おもちゃを楽しむに待ってくれる子どものためなら、いつも以上にがんばれるんじゃないかな」そんな声が利用者からあがっています。

さあ、どんなリクエストが届くのかな。作り手である利用者一同、心待ちにしています。（瀧下 春菜）

昨秋以降、全国各地のみなさまに協賛金のご協力をいただいております。本当にありがとうございました。ひきつづき、活動へのご協力のほどよろしくお願いいたします。*詳しくは同封のチラシをご覧ください。

コーヒーが楽しめる木のおもちゃのお店 ～木のおもちゃのお店 おあしす ポラリス森下カフェに特別出店～

昨年12月7日～11日の5日間森下駅から徒歩5分ほどにある「ポラリス森下カフェ」（休止中）にて木のおもちゃの特別出店をさせていただきました。「アートパラ深川」（障がい者アートの市民芸術祭）で木のおもちゃを地域のカフェやお店に展示・販売した際に紹介していただいたことがきっかけでした。

木のおもちゃの販売員がカフェ店員に!?

カフェでの販売ということで、来店された方にはおあしす福祉会が応援している岩手県宮古市の障がい者施設“みやこワーク・ステーション”のコーヒーを1杯無料で配り、土日は木のおもちゃのワークショップも行いました。カフェを運営している株式会社こだま様から販売のお話を聞いた時、オシャレなカフェで木のおもちゃを販売させてもらえるのが楽しみである一方で、初めての販売先でお客さんが来てくれるかな？という不安もありました。そこで、利用者と一緒に2週間前から森下地域に2,000枚のチラシを配り、アートパラ深川でお世話になった方々にも告知に協力していただきました。また、期間中は利用者の皆さんとコーヒーの淹れ方を練習してから当日に臨みました。



たくさんのおもちゃが飾られたカフェ店内

コーヒーの香りがする店内は大盛況！

店内に展示された私たちの木のおもちゃは、ポラリス森下カフェのオシャレな雰囲気になっさり馴染んで、いつも見るおもちゃたちがより一層素敵に見えて感激しました。お店をオープンすると、地域の方だけでなくアートパラ深川でお世話になった方、近くの保育園の先生、株式会社こだま様が運営するデイサービスの利用者の方等沢山の方が来店されました。最初は慌ただしく接客をしていましたが、次第にコーヒーを入れる人・カップを取り付ける人・お客様に渡す人と分担され「あの人に渡してきてください」「お客様が来る前にコーヒーを入れておこう」等皆で声を掛け合いながら接客できるようになりました。土日のワークショップでは子どもたちが開店前から並んでくれたり、チラシを持って来店して下さる方もいて大盛況で販売を終えました。

販売に参加した利用者からは「学生の時に喫茶店でアルバイトをしたのを思い出した」「カフェの店員さんになったようで新しい経験ができて楽しかった」「開店前に小さい子が並んでいたり、『可愛い!』と言って商品をたくさん買ってくれた人がいて嬉しかった」といった感想が寄せられました。

今回の販売では利用者の新たな一面が見られたことが嬉しく、自分たちのおもちゃが売れて喜ぶ姿はとても印象に残りました。このような機会をくださった株式会社こだまの皆様やアートパラ深川でお世話になった皆様は心より御礼申し上げます。今後も利用者と新しい経験が沢山できるように努力していきたいと思っております。

(田坂 瑠璃)



コーヒーの良い香りの中
販売しました



ワークショップでは子ども達と
一緒に木のおもちゃを作りました

木のおもちゃのお店 おあしすの製品は
オンラインでも販売しています。
下記のQRコードからご覧ください。



発行人：障害者団体定期刊行物協会 世田谷区祖師谷3-1-17-102

編集人：キープハート／おあしすの事業を支える市民の会 定価100円